

小 学 校

平 成 17 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

生

活

東 京 都 教 職 員 研 修 セ ン タ ー

目 次

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由	2
2 研究主題の基本的な考え方	3
3 研究構想図	7

II 研究の方法

1 成長を実感できる単元構成の工夫	8
2 児童の学びを促す適切な支援方法の工夫・開発	9

III 実践事例 検証授業より

事例 1	10
事例 2	14
事例 3	17
事例 4	21

IV 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果	24
2 今後の課題	24

**研究主題 生活科における基礎・基本の育成
～個を高める学習活動の工夫～**

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

生活科の町探検で初めてお店に行き、おそろおそろ挨拶をした子どもたち。仕事について調べたり、一緒に体験させてもらったりしているうちに、「お店のおじさんはおいしくなあれっ
て言いながらお団子を作っているんだよ。」とうれしそうに報告してきた。自分たちの住む
地域に目を向け、新しい発見や驚きを素直に表現できる子どもたちが育っている。

「新しい時代の義務教育を創造する」（答申）（中央教育審議会）第Ⅱ部各論の第1章に「義務教育の目標を明確にして結果を検証し質を保証する」として、次のように示されている。

国際的に質の高い教育の実現のためには、義務教育の目的に照らし、今日のグローバル社会、生涯学習社会において、義務教育段階の学校教育で具体的にどのような資質能力を育成することが求められているのかを明らかにすること、すなわち、義務教育の到達目標を明確化することが必要である。（＊）

この義務教育段階の学校教育で、どのような資質能力を育成することが必要であるのかが具体的に求められている中で、生活科においても「何を学び、どのような学力につながっているのか。」という到達目標を明確化することが必要である。

そこで、今こそ生活科の原点に立ち返り、基礎・基本（学習指導要領に示されている基礎的・基本的内容）が確実に定着するため、生活科の基礎・基本である「目標」及び「内容」の検討から着手した。その結果、私たちは、基礎・基本が確実に定着するためには、すべての子どもに指導する内容をおさえることによって、「児童に身に付けさせたい力」を明確にしていくことが何よりも大切であると考えた。

また、生活科の内容構成の「基本的な視点」は、

- ・自分と人や社会とのかかわり
- ・自分と自然とのかかわり
- ・自分自身

であり、「自立への基礎」をはぐくむことと関連がある。そのため、「児童に身に付けさせたい力」を明確にしていくと同時に、全体に指導するだけでなく、児童一人一人に着目し、それぞれの子どもに応じた個を高める学習活動を工夫する必要があると考えた。

以上のことから、本研究では、生活科における基礎・基本をすべての子どもに指導する内容としてとらえ、児童一人一人の自立を目指すことができる指導の充実を図りたいと考え、研究主題を「生活科における基礎・基本の育成～個を高める学習活動の工夫～」と設定した。

（＊）「新しい時代の義務教育を創造する」（答申） 平成17年10月26日より抜粋

2 研究主題の基本的な考え方

(1) 生活科における基礎・基本

生活科の基礎・基本は、児童が「身近な人・社会・自然と直接かかわりながら行われる具体的な活動や内容」といってもよい。具体的には、「見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ」などの活動を通して、そこで得たことなどを、「言葉、絵、動作、劇化」などで表現するのである。

本研究では、生活科における基礎・基本をすべての子どもに指導する内容にとらえ、児童一人一人の自立を目指すことができる指導の充実を図りたいと考え、研究主題を「生活科における基礎・基本の育成」と設定した。

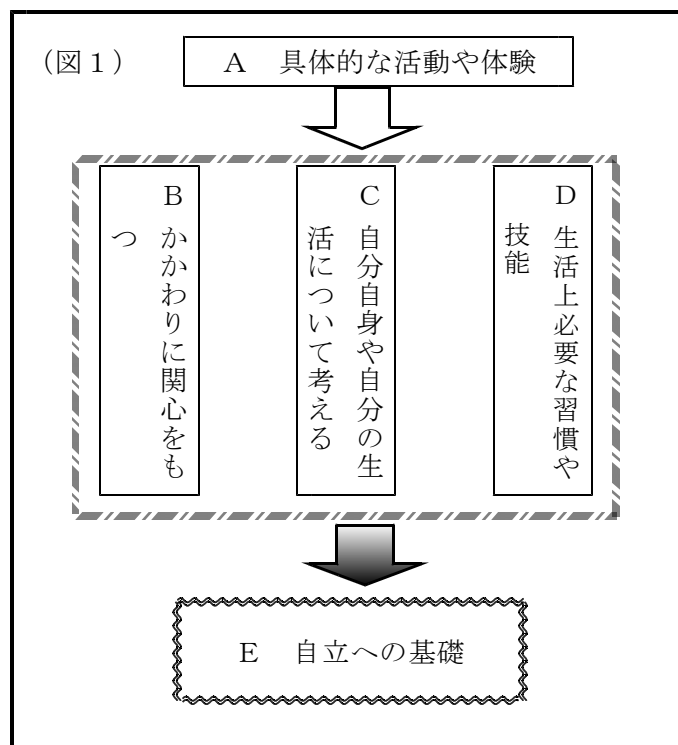
生活科においてすべての児童に身に付けさせたい力は、具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を培う過程を具体的に見取り、フィードバックを繰り返す学習活動の積み重ねの中で高まると考えた。そのことによって、教師だけでなく児童とかかわるすべての人々が児童の学びに参画し、児童の成長を肯定的に受け止められるようになることで、伸びているという実感を児童はもちろん、学習にかかわる人々で「共有できる場」を実現したいと考えた。

そこで、生活科の目標に示されている文言を五つに分け、それを八つの内容に組み合わせてマトリックスを構成した。それは「生活科の教科目標と内容との関連表」(P 4～5)として示した。この関連表の作成に際しては、「小学校学習指導要領解説 生活編」を参考にした。関連表により、生活科の基礎・基本の内容を一層明確に示すことができた。同時に、これが、生活科における「身に付けさせたい力」の拠りどころとなった。このように生活科の基礎・基本については生活科の目標及び内容を手がかりに作成した。

検証授業に際しては、単元を構成するときにこの関連表が重要な基礎資料となった。

単元構成をするうえでは、「生活科の教科目標と内容との関連表」のAからEは、並列ではなく、図1に示したように、A(具体的な活動や体験)を通して、B(かかわりに関心をもつ)、C(自分自身や自分の生活について考える)、D(生活上必要な習慣や技能)を身に付けて、生活科の目標であるE(自立への基礎)につなげてくものと考えた。

生活科においてすべての児童に身に付けさせたい力を明確にし、自分のよさや可能性を実感し、生活することへの意欲や自信をもつ児童を目指して、本研究を推進していく。



【生活科の教科目標と内容との関連表】

目標 内容	A 具体的な 活動や体験	B かかわりに 関心をもつ	C 自分自身や自分の生 活について考える	D 生活上必要な 習慣や技能	E 自立への基礎
(1) 学 校 と 生 活	・学校の施設を利用する。 ・通学路の様子に関心をもってそこを歩いたり、調べたり、観察したりする。	・先生や友だちとのかかわりを深めようとする。 ・自分の思いや願いをもって友だちと一緒に活動しようとする。	・学校にはみんなで気持ちよく安全に生活するための決まりやマナーがあることに気付く。 ・動植物や自然、出会う人、危険な箇所、安全を守ってくれる施設や人々に気付く。	・学校生活のリズムを身に付ける。 ・その場に応じて考え、判断し、行動する。	・学校での生活を豊かに広げる。 ・安全な登下校ができる。
(2) 家 庭 と 生 活	・家族とともにしていることや家族にしてもらっていることを振り返る。	・家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を進んで行おうとしている。	・家庭の温かさや家族の大切さに気付く。	・自分の生活を見直す。 ・規則正しく健康に気を付けて生活する。	・自分のできることを自分の役割としてとらえ、それを積極的に果たそうとする。
(3) 地 域 と 生 活	・繰り返し探検をし、人、場所と接し、地域を身近に感じ、親しみや愛着をもつ。	・活動を発展させて、自分たちで見つけたよさを地域の人々に知らせたり、地域とのかかわりを一層深めたり広げたりしようとしている。	・自分の住む地域にはいろいろな場所や人がいることを知り、自分と、自分との生活にかかわっていることに気付く。	・地域の人々と元気にあいさつをしたり、公園などで幼児に遊具を譲ったり、用件を正しく伝えて買い物をしたりできる。	・地域の人々や様々な場所に対する親しみの気持ちや、愛着をさらに深めていくようにする。 ・自ら地域とかかわろうとする。
(4) 公 共 物 や 公 共 の 施 利 設 用	・公共物や公共施設を利用する。	・公共物や公共施設を利用する中でこれらの人々とかかわり、親しみを感じるようになる。	・公共物や公共施設はみんなのものであるということが実感として分かる。	・身の回りの公共物や公共施設を大切にし、安全に気を付けて、正しく利用できる。	・自分自身の生活を広げたり、豊かにしたりする。

(5) 季節の変化 と生活	・野外に出かけ、興味、関心をもって繰り返し観察する。 ・季節や地域の行事にかかわる活動をする。	・自分なりの思いや願いをもって進んでかかわろうとする。	・四季の変化を体全体で感じ取り、季節によって生活の様子が変わること気付く。	・体全体を使って自然の良さを十分に味わう。	・自分たちの生活を工夫したり楽しくできるようにしたりする。
(6) 自然や使物 を使った遊 び	・身の回りの自然を利用したり、身近にあるものを使ったりする。	・遊びを作り出す楽しさや夢中になって遊ぶ楽しさを味わおうとしている。	・約束やルールを守って遊ぶと楽しいことに気付く。 ・友だちのよさや自分のよさ、自分との違いに気付く。	・約束やルールが大切だと分かる。 ・相手の考えを尊重する態度が身に付く。	・友だちと一緒に遊ぶために遊び方を工夫したり、約束やルールを作ったりして、友だちとよりよいかかわりがもてるようになる。
(7) 動物植物の 飼育栽培	・身近な動物や植物とかかわったり、ふれあったり、飼育栽培の活動を行う。	・育てている動物植物の変化や成長の様子に関心をもち、大切にしようとしている。	・動植物の成長や変化に気付く。 ・生命をもっていることに気付く。 ・動植物への自分のかかわり方に気付く。	・動物の飼育や植物の栽培ができる。	・生き物への親しみを深め、一層それらを大切にする。
(8) 自分の成長	・自分の幼かったころのエピソードについて自分を知っている人に聞く。 ・具体的な手がかりをもとに自分の成長を振り返る。	・具体物や話などを手がかりとしながら、自分の成長を支えてくれた人々とのかかわりを意識しようとしている。	・過去の自分と現在の自分を比較し、自分の生活や成長について気付く。 ・自分の成長の背後には、多くの人々の支えがあったことに気付く。	・周囲の人々に取材活動ができる。 ・自分の成長についてまとめることができる。	・これからの成長への具体的な願いや夢をもって生活する。 ・自分の成長を支えてくれた人々に対する感謝の気持ちが芽生える。

（２）個を高める学習活動の工夫

生活科は、一人一人の児童の学習状況に応じた支援が大切である。児童一人一人のよさや可能性は、各児童が自分の思いや願いをもち、自分の経験、知識、技能などを使って身近な人・社会・自然に直接かかわる中に現れてくる。生活科では、こうした児童が生き生きと活動する中での児童の表情や話しの中にその子のよさや可能性が発現する。

個を高める学習活動とは、「生活科の最も大きな特質は、子どもが自然とのかかわりの中で、身近な人々、社会及び自然に直接働きかける活動を展開することにある。」（初等教育資料 平成16年5月号No. 781）のとおり、一人一人の児童に着目し、外部の環境からの刺激に対してただ、表面的に反応するのではなく、学習が自分にとって価値があると感じ取り、学習と生活そのものに積極的に向かっていくことである。そのためには教師が、児童自らの成長を実感できるような場を設定し、個の充実を図っていくことが必要である。

そこで、個を高める学習活動を工夫することによって、児童は自分自身をよりよく理解することができ、自分のよさや可能性に気付くことができると考えた。このことは、生活することへの意欲や自信を一層もつことにもつながり、自立への基礎を養う上で重要である。そのために、児童一人一人が自らの成長を実感できるような単元構成を工夫することにした。

なお、どの単元構成にあたって、自立への基礎を意識して個を高める学習活動を設定していくようにした。それは、生活科の究極的な目標である「自立への基礎」を養う上で大切であり、具体的な活動や体験をする中で、児童は、自分自身のよさや可能性についてのイメージを深めたり、自分の生活について考えたりすることによって、自分とのかかわりを大切にする学びが実現できると考えたからである。

児童一人一人が自らの成長を実感できるような単元構成を工夫することは、児童の自発性・能動性を引き出すために教師が、

- ・ 児童のよさに感動し、児童のよさに驚くこと
- ・ 時には、教師が児童の発想から学ぶなど、児童の言葉かけや学習活動を深める工夫をすることが必要である。すなわち、自分とのかかわりを大切にする学びを念頭に、一人一人の子どもが自らの成長を実感する学習活動を実現するための工夫として、生活科の特質を踏まえ、多様な方法、時間をかけた見取り、受容するだけでなく、児童に積極的に働きかけていくことをねらいとした。

個を高めるとは、自分とのかかわりを大切にする学びが実現できることであり、「個を高める学習活動の工夫」は、児童自らの成長を実感できるような場を設定していくことである。

一人一人の児童は、その成長によって気付きや成長が異なり、それぞれの成長を教師が個々にみとることによって、児童自らがその成長を実感することができ、学習する単元での身に付けさせたい力が確実なものとなっていくのである。

したがって、各単元における身に付けさせたい力を明確にし、一人一人の子どもが自らの成長を実感する学習活動を工夫することによって、すべての子どもたちに身に付けさせたい知識・技能等の徹底（「基礎・基本」の徹底）されていくと考え、以上の事柄を踏まえ、次のような研究仮説を設定し、研究を進めることとした。

研究仮説

各単元における身に付けさせたい力を明確にし、一人一人の子どもが自らの成長を実感する学習活動を工夫することが、生活科における基礎・基本の育成につながるであろう。

3 研究構想図

生活科の目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ自立への基礎を養う。

現在の教育界の動向

一人一人の子どもたちの個性や能力を伸ばし、生涯にわたってたくましく生きていく基礎を培うとともに、国家・社会の形成者として必要な資質能力を養うことを基礎に据えて、これからの社会においては、自立して社会人を育成することがますます重要となってくる。
（「新しい時代の義務教育を創造する。」（答申）中央教育審議会平成 17 年 10 月 26 日）

生活科の実践上の課題

- ・ 体験や活動をする中で、どのような資質や能力が身に付くかを教師が適切に捉えていない。
- ・ 活動が自発的・主体的でないため、児童に身に付けさせたい力や、教師による評価と支援が十分でない。
- ・ 児童一人一人が学習を通して、自分の成長を実感できるような指導計画になっていない。

研究主題

生活科における基礎・基本の育成
～個を高める学習活動の工夫～

研究仮説

各単元における身に付けさせたい力を明確にし、一人一人の子どもが自らの成長を実感する学習活動を工夫することが、生活科における基礎・基本の育成につながるであろう。

研究の内容と方法

1 基礎研究

- (1) 学習指導要領の分析
- (2) 授業実践の考察
- (3) 先行研究の収集・分析

2 授業研究

- (1) 研究授業 3 回
- (2) 検証授業 7 回

3 具体的な方策

- (1) 成長を実感できる単元構成の工夫
 - ① 基礎・基本を明確にした指導計画
 - ② 人々とのかかわりを重視した指導計画
- (2) 児童の学びを促す適切な支援の方法の工夫・開発
 - ① イメージマップの活用
 - ② 振り返りカードの活用

目指す児童像

自分のよさや可能性を実感し、生活することへの意欲や自信をもつ児童

Ⅱ 研究の方法

1 成長を実感できる単元構成の工夫

『小学校学習指導要領解説編 生活科』の第5章生活科の学習指導第1節 生活科の学習の特質には、「第4の特質は、身近な人々、社会及び自然についての気付きとともに、そうした気付きをする自分自身にも気付くことができるようになることを重視していることである。それは、児童が自分自身をよりよく理解する学習であり、自分の可能性についての気付きを深め、生活することへの意欲や自信を一層もつようになることを目指しているのである。」と述べられている。

このことから、本研究では、児童が自身の学びに気付き、成長を実感できるようにするための単元構成を工夫した。

(1) 本単元の基礎・基本を明確にし、指導計画を組み立てる。

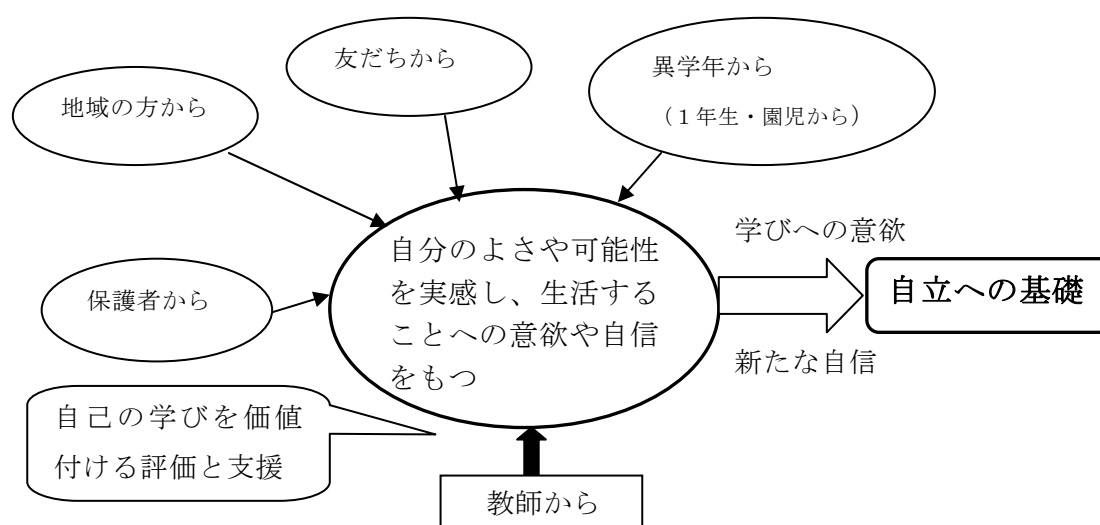
単元ごとの身に付けさせたい力が明確になることで、児童に対し学びを価値付けるような具体的な手だてをとることができる考えた。また、どのような単元においても、体験や活動を通して、児童が成長を実感でき、自立への基礎に結びつくようなねらいを意図的に組み入れた。

(2) 身近な人々とのかかわりを重視した指導計画を組み立てる。

今日の子どもを取り巻く社会環境は、少子化、高齢化の進行や地域社会における人と人とのつながりの希薄化など課題とされるものもいくつか挙げられる。このような現状を踏まえ、身近な様々な人々とのかかわりを重視し、繰り返しかかわることを大切にした指導計画を立てることを工夫した。

また、自分自身の学びを他者から肯定的に評価されることは児童にとって大きな自信となり、よさへの気付きや生活することへの意欲につながると考え、他者からの評価を受ける効果的な場を設定し、指導計画に位置付けた。

<様々な人々とのかかわり・評価と自立への基礎とのつながり>



2 児童の学びを促す適切な支援の方法の工夫・開発

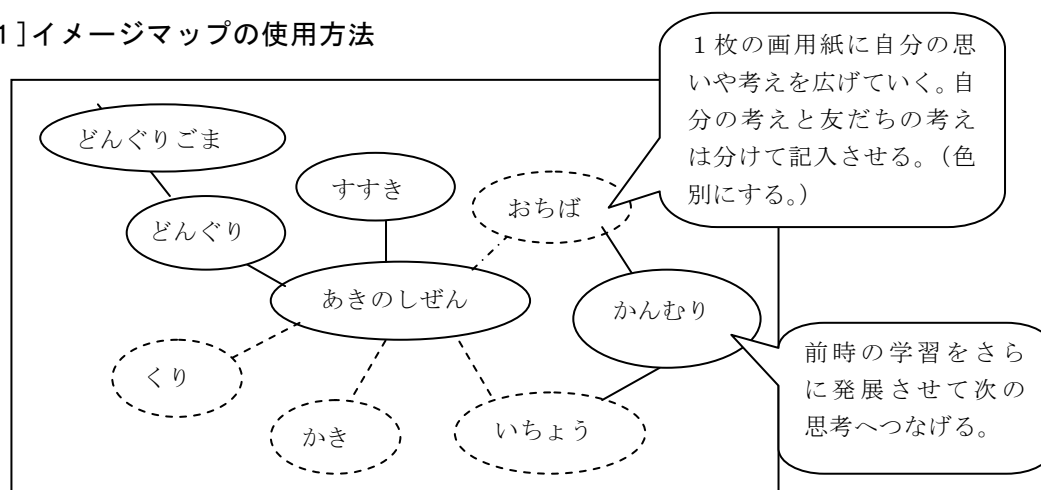
生活科では、一人一人の思いや願いが大切にされなければならない。しかし、それぞれが学びを成立させていくプロセスは多種多様である。

そこで、子どもたち一人一人の活動や体験を十分に観察し、それぞれの知的な気付きを見取り、さらに深めていくための具体的な手だてについて考えた。

(1) 自分自身の思考の広がり意識できるイメージマップの活用

自身の思考の広がりや深まりを実感しやすく、また、友だちの考えをカードに書き加えていくことにより、1時間の学習の中で自己の学びに広がりがあったことを確認することができる。

[表1] イメージマップの使用方法



(2) 知的な気付きを積み重ねることができる振り返りカードの活用

一人一人の児童が学習を通してどのように望ましい変容を遂げたかを、児童自身が振り返ったり、自分や友だちのよさに気付いたりできるように振り返りの学習方法について考えた。

活動ごとの振り返りを繰り返し行うことにより、児童にとって次時の学習への意欲付けや活動の見通しをもたせることが容易になる。また、教師による児童の気付きを価値付けるようなコメントを加えることにより、児童が自分の学びに自信がもてるようになると思った。

[表2] 振り返りカードの活用例

(ア) 単元の終わりの振り返りカード

ふりかえりカード なまえ()
あきとあそぼう
1、がっこうのまわりやこうえんであきを見つけることができましたか ☺ ☹
2、はるやなつとのちがいがわかりましたか ☺ ☹
3、みつけてきたあきをくふうしてつかうことができましたか ☺ ☹
4、たのしくあそぶことができましたか ☺ ☹
5、ともだちとたのしくかつどうできましたか ☺ ☹
せんせいから

単元を通しての自己の学びを観点別に評価できるように項目を立てておく。

行動観察だけでは見取れない児童の気付きを把握し、次時の学習への支援となるようなコメントを加える。

単元の始めと終わりで児童が変容した姿を捉えて児童に分かるようにコメントを加える。

(イ) 活動ごとの振り返りカード

ふりかえりカード なまえ
今日の学しゅうをふりかえてみよう ☺ ☺ ☹
先生から

Ⅲ 実践事例 検証授業より

事例 1 様々な学習カードを利用して振り返りを行い、自分の成長を実感できるようにした実践例

第2学年 単元名「私たちの町 桜台・栄町大発見」（内容3）

（1）単元の目標

探検したり、発表したりする活動を通して、自分たちの町の楽しさやよさに気づき、愛着をもつ。

（2）単元構成

本単元で付けさせたい力（内容3）

A：具体的な活動や体験

- ①自分の興味をもったお店を見付けられるようにする。
- ②みんなの前で発表する機会を設ける。
- ③自分の住む地域に関心をもって探検できるようにする。



身に付けさせたい内容		
B：かかわりに関心をもつ	C：自分自身や自分の生活について考える	D：生活上必要な習慣や技能
①地域の人々や様々なお店とかかわることを楽しもうとする力。	①地域には楽しい物や親しくなった人がいることに気づく力。	①自分の思いや考えや気付いたことを発表する力。
②様々な人とかかわろうとする力。	②様々な人の意見に気づく力。	②活動を計画し安全に実行する力。
	③様々な人や自分のよさに気づく力。	③礼儀正しく人と接する力。



E：自立への基礎

- ① 自分の考えを生かすことができる。
- ② 地域に対して親しみの気持ちや、愛着をもつことができる。
- ③ 周りの人の意見を生かすことができる。

（3）成長を実感できる単元構成の工夫

- 明確にした基礎・基本から、本単元の基礎・基本を取り出して指導計画を組み立てる。
 - 児童の学習がねらいに沿って進められるように単元を構成する。
 - ねらいに沿った学習を進められるようなカードを用意したり、振り返りの学習活動を行う。
 - 自分の学習カードや振り返りの活動の際に、他者からの多様な評価を基にして、自分の学習の足跡をたどれるようにすると共に、自己の成長を実感できるようにする。
- 以上のように単元を構成することによって自立への基礎が養われると考える。

(4) 単元の指導計画 (22時間扱い)

時間	学 習 活 動 (時数)	つけさせたい力(☆)と教師の支援(○)
出 会 う ・ か か わ り 合 う	○自分の家の周りのお店を探し、発表する。(2) ○行ってみたいお店を決める。(1) ○探検チームを編成し、探検パスポートを作成する。(2) ○ごあいさつ探検をする。(2) ○ごあいさつ探検のまとめをする。(1) ○お手伝い探検の計画を立てる。(1) ○お手伝い探検に行く。(2)	☆B① ○興味をわかせるために、1学期の探検を思い出させるようにする。(学区域の地図使用) ☆B① ○受け入れてくれるお店の簡単な紹介をする。 ○店の場所の確認をする。 ☆B①・D③ ○学習の流れあいさつの仕方を示した学習カードを使用する。 ○保護者へ町探検の趣旨を書いたお知らせと安全確保のための見守りの協力を依頼する。 ☆B②・D②・D③ ○安全の確保に留意する。 ○探検場所を見回り、アドバイスを行う。 ○付き添いの保護者に観察カードを書いてもらう。 ☆C① ○学習カードに体験してきたことを記入する。 ☆B① ○お手伝い探検に意欲を高められるような学習カードを使用する。 ☆B①・B②・D②・D③ ○安全の確保に留意する。 ○探検場所を見回り、アドバイスを行う。 ○付き添いの保護者に観察のカードを書いてもらう。
広 げ る ・ 深 め る	○お手伝い探検のまとめをする。(1) ○発表会の準備をする。(6) ○発表会をする。(2)	☆C① ○諸感覚を通して感じたことをまとめられる学習カードを使用する。 ○発表会に向けて発表内容が確認できるようにする。 ☆C②・C③ ○発表の仕方が分かる学習カードを使用する。 ○グループの願いを実現できるようにアドバイスする。 ○毎時間の活動の振り返りをさせるようにする。 ☆D① ○発表している様子を把握し、アドバイスを行う。
振 り 返 る	○発表会の振り返りをする。(1) ○単元全体の振り返りをする。(1)(本時)	☆C①・C②・C③ ○発表会で自分たちの伝えたかったことを伝えられたか確認する。 ☆C①・C②・C③ ○学習の成果について振り返ることができるよう、多様な資料を用意する。 ○学習の流れを再現できるような学習カードを使用する。

(5) 本時 (22 / 22 時間)

対象児 (プロフィール)

生活科の学習には積極的に取り組んでいる。対象ともよくかかわっており、たくさんの事に気付いている。今回の学習を通して、自分自身への気付きを深め学習の成果や達成感を実感し、自分への自信を深めるようにして行く。

ア ねらい

- ・様々な資料を元にして、自分の学習を振り返り、自分の成長に気付く。

イ 本時でつけさせたい力

- C① 地域には楽しい物や親しくなった人がいることに気付く力。
- C② 様々な人の意見に気付く力。
- C③ 様々な人や自分のよさに気付く力。

(6) 展開

学 習 活 動	つけさせたい力 (☆) 教師の支援 (○) 留意点 (・)
1 これまでの学習について確認する。	○お手伝い探検の時の写真を提示し、活動したことやお店の人と交流したことを思い出させるようにする。 <考察>お手伝い探検の際の写真を提示したところ「水をはじくところが汚れているところ」と、初めての発言をする。→写真を提示したり、一対一で話すことによって新たな気付きを引き出すことができる。
2 学習カードに「できるようになったこと」を記入する。	前時の学習を振り返るようにさせる。 ○机間指導を行い観察をする。 <考察>「水をはじくところを水でむらしてクレンザーをまく」と記入されていた。→直近の記憶が強く単元全体の学習の成果については思いが及んでいない。
3 資料を元に学習カードに自分の学習の足跡を記入する。 	C② 様々な人の意見に気付く力。 C③ 様々な人や自分のよさに気付く力 ○発表を行ったあとに、これまでの学習全体を振り返って、「できるようになったこと」が他にないか考えさせるようにする。 ○資料を見て振り返りを行う。 ○「できるようになったこと」が増えたら、赤鉛筆で追加させるようにする。 <考察>全体で小単元毎に振り返りを行い、これまでのカードを見ることによってこれまでの学習の成果をカードに記入することができ、赤鉛筆で「大きなお風呂を洗えるようになった」と記入されていた。→過去の学習を振り返ったり、カードを見直したりすることによって自分の足跡を振り返ることができ、単元全体へ視点に移すことができる。

4 保護者からの手紙を読む。	○しっかりと読む時間を与え、保護者からの評価を理解させる。 ○学習カードに手紙をもらった感想を書くようにする。
＜考察＞じっくりと何度も手紙を読み返し、うれしそうにしていた。一番うれしかったことを記入するように言うと、「自分でもがんばったと思っていたところをさらにほめてもらってうれしい」と記入されていた。→保護者からの手紙はととてもうれしいものであり、自分のがんばりが理解されることによって、より達成感がもて、学習に対して満足感を得ることができる。	
5 単元全体を通しての感想を発表する。	○観察をもとに指名を行い、発表させるようにする。
＜考察＞一番に挙手をし、「探検をして色々教えてもらって、できるようになったこともうれしいし友だちとけんかしそうになったけど、協力して発表もちゃんとできたこともうれしい。そして、お母さんにほめてもらえたこともうれしい」と発言する。→本時の学習を通して単元全体を通しての自分の学習を振り返ることができた。それまで断片的であったり、曖昧であった記憶を一つの流れに沿って整理することができた。このことによって学習のまとめがしっかりとできるようになり、児童にも達成感や満足感を感じさせられるようになり、自信も深まったと考える。	
6 学習のまとめをする。	☆ C① 地域では楽しい物や親しくなった人がいることに気付く力。 C② 様々な人の意見に気付く力。 C③ 様々な人や自分のよさに気付く力。 ○学習全体を通してがんばったこと、できるようになったことを肯定的に受け止め、達成感をもたせるようにする。

(7) 考察

写真の提示、過去の学習カードの見直し、保護者からの手紙など、児童にこれまでの学習の資料を多く与えることは有効な学習であった。また、新たな気づきを引き出すことができたり、自分の足跡を振り返ったりすることによって、単元全体へ視点を移すことができた。これは、断片的で曖昧だった記憶を一つの流れに沿って整理することで、学習のまとめがしっかりとできたという、児童自らが達成感や満足感を感じることで自信につながる有効な学習であった。特に、地域のお店の人や保護者、教師など、他者からのコメントや評価を知らせることによって、自分のがんばったことや成果に気付かせることができ、学習がより深いものとなった。

なお、与える資料の量や内容、表現の方法、学習スペース、時間などの留意すべき事柄については、今後の課題となっている。

事例２ 身近な人々とのかかわりを重視した指導計画を組み立てることにより

自分の成長を実感できるようにした実践例

第２学年 単元名「たんけん はっけん 大ぼうけん 秋」（内容３）

（１）単元の目標

- ・地域とのかかわりを一層重視し、地域の様々な人々とのかかわりに関心をもつことや、自分たちの地域に愛着をもつことができる。
- ・身近な人々、社会および、自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して、気付いたことや、楽しかったことなどを表現できる。

（２）単元構成：本単元で身に付けさせたい内容を以下のように考えた。

A：具体的な活動や体験

- ①地域のお店に興味をもてるようなビデオクイズを導入に見せる。
- ②自分の住む地域に関心をもって、探検できるようにする。
- ③学級だけではなく、他クラスや異学年の児童の前で発表する機会を設ける。

身に付けさせたい力

B：かかわりに関心をもつ	C：自分自身や自分の生活について考える	D：生活上必要な習慣や技能
①興味をもってお店を見付ける力	①適切なかかわり方について気付く力	①礼儀正しく人と接する力
②地域の人々やお店とかかわることを楽しもうとする力	②地域には親しくなった人がいることに気付く力	②自分の思いや考え、気付いたことを発表する力
③様々な人とかかわる力	③様々な人や自分のよさに気付く力	③互いのよさを賞賛する力

E：自立への基礎

- ① 学習上の自立：自分の考えを生かすことができる。
- ② 生活上の自立：自ら地域とかかわろうとすることができる。
- ③ 精神上的の自立：地域に対して親しみの気持ちや、愛着をもつことができる。

（３）成長を実感できる単元構成の工夫

地域の人とのかかわりが希薄な現状を踏まえ、身近にいる様々な人々とのかかわりを重視し、繰り返しかかわることを大切にしたい指導計画を立てることを工夫した。直接かかわる体験により児童は地域に親しみをもち、愛着をもつことができると考えた。

また、自分自身の学びを学級の児童だけではなく、他のクラスの児童、異学年の児童、保護者、地域の人などから、肯定的に評価されることは児童にとって大きな自信となり、自分のよさへの気付きや生活することへの意欲につながると考えた。そのため他者からの評価を受ける効果的な場を設定し、指導計画に位置付けた。

以上のように人々とのかかわりを重視した単元を構成することによって自立への基礎が養われると考える。

（４）対象児のプロフィール

A児…地域に商店があることは知っているが、お店の人とかかわった経験が少ない児童。

B児…地域の商店を利用したことはあるが、自分から声を掛けることがなかなかできない児童。

(5) 指導計画

	学習活動(時数)	つけさせたい力(力) 教師の支援(○)	活動を通した児童たちの感想
出 会 う ・ か か わ り 合 う	○地域の商店の人が出すビデオクイズに関心をもち、行きたいお店に関心をもち。 (1) ○地域の商店で調べたい店を決め、グループを作って、ご挨拶の探検に行く準備をする。(3) ○地域の店に挨拶と質問をしに行く。(2) ○分かったこと、気付いたことをカードに書く(1)	(力) B 1 (観察) 発言・日記 ○人の写真や場所を地図にはる。 (力) C 1 (観察) 計画表・発表 ○挨拶、集団行動、質問内容などの適切なかわり方ができるように、役割演技を行う時間を設定する。 (力) B 2・D 1 (観察) 行動・対話・発見カード・写真・ビデオ ○保護者へ町探検の趣旨のお知らせと安全確保のための見守りの協力を依頼する。 (力) C 2 (観察) カード・発表 ○出会えた人から教えてもらったことなどをカードにまとめる。	◎質問に行く前(ビデオを見て) A: 町探検でどんな人に出会えるか楽しみです。鎌田の町は楽しそうです。 ◎質問に行った後 A: 和菓子屋に行きました。「おいしくなあれと願っている。」と聞きました。おそばやさんも一緒でした。食べものや ◎質問行く前 B: 町探検で楽しみなことは挨拶と質問をすることです。本当は恥ずかしいけど、すごく楽しみです。 ◎質問に行った後 B: 学校から行く時に、心臓がドキドキしました。お店の人に「こんにちは」と言えてよかったです。

「出会う・かかわり合う」の考察

A児: 導入で人の写真を見たり、お店の人からのクイズを考えたりすることにより、興味や関心を示し、町へ行くことが不安よりも楽しみになった。また実際に質問する機会を設けることにより、商店の人と直接かかわり、相手の気持ちを考えることができた。

B児: お店役と児童役の役割演技を入れる事により、自信をもって地域の人々とかかわる事ができた。お客さんやお店の人に「こんにちは」と言えてよかったという習慣・技能を高める事ができたことが、自立への基礎を養うことに繋がった。

広 げ る ・ 深 め る	○お店の人に質問したことで、分かったこと、気が付いたことをまとめる。(1) ○店員さんとしての心構えについて話し合う。(1) ○お店の人に教えていただいた仕事をし、店の人やお客さんとかかわる。(2)	(力) D 2 (観察) ◎発見カード ○「分かったこと」「質問したいこと」をまとめ情報を共有化する。 (力) C 1・D 1 (観察) 発表 ○実際に去年やっているビデオを見 ることで具体的なイメージをもって考えさせる。 (力) C 2 (観察) 行動・カード ○お店の人に事前に児童が行うお手伝い内容などを聞いておく。	◎体験活動の前 B: お店のお手伝いで楽しみなことは元気に挨拶をすることです。元気に挨拶をすると気持ちがいいし、お客さんが喜ぶから。だから、きちんと元気に、にこにこ挨拶をしたいです。 ◎体験活動後 A: 私は和菓子屋さんへ行った。そこはすごく親切で優しい人だった。きな粉団子を作ったら「手がぬるぬるした子いない」って聞いてくれるんだよ。とても親切な人でしょ。
---------------------------------	--	--	---

「広げる・深める」の考察

A児: 1回目の質問で親しくなり、2回目の体験活動で直接かかわることにより、「手がぬるぬるした子いない?」って聞いてくれるんだよ。とても親切な人でしょ。」とお店の人へ愛着

をもった。保護者にも活動の楽しさを報告し、個人的にお団子を買に行けることを保護者に話すなど、自分の生活に生かしていこうとすることができた。

B児：地域の人々と直接かかわる体験を多く取り入れる事により、「お店の人と上手にあいさつをできたから今度はお客さんにあいさつをしたい」と挨拶の重要性を感じ、次の活動へと生かすことができた。放課後にも自主的にお店の人に挨拶をするなど自分の生活とのかかわりを深めようとする事ができた。

振り返る	○発見したこと、楽しかったことをカードに書く。(1)	(力) D 2 (観察) ◎発見カード	◎「1年生に感じてもらいたいこと」
	○カードを元に、はじめて知り、発見したことを、探検グループごとに好きな方法でまとめる。(3)	○かかわりを思い出して書く。 (力) C 3 (観察) ワーク	A: 1年生にお団子のことをもっと知ってもらって、お団子が嫌いな子もお団子を好きになってもらいたい。
	○クラス内で前半・後半に分かれて発表の様子を見合い、互いにアドバイスし合う。	○表現内容、表現方法を考える。 ○台本やそれぞれの発表に必要な物を作る。	B: お店やさんは笑顔で挨拶するんだなと感じてほしい。
	○「探検発表会」を開く。(2) ○学習を振り返り、自分の成長した部分に気付く。(1)	(力) D 3 (観察) 意見交換 ○目的意識が高まるように、カードに伝えることを書いておく。 (力) C 3 (観察) 発表 ○今までの活動を活かして発表。 (力) C 2・C 3 (観察) 振り返りカード ○児童が自分の成長を実感できるようなふりかえりカードを用意する。	◎「発表をして」 A: 1年生に「おいしくなあれ」って言うとおいしくなるんだよっていうことを伝えたかった。発表が終わって1年生が分かってくれたからもうすごいうれしかった。今までやってきてよかったと思った。 B: ドキドキした気持ちがいっぱいあった。1年生の子が真剣に見てくれたから、心の中で「うれしいな、もっと楽しませて、もっと教えてあげよう！」と心の中が温かくなった。

「振り返る」の考察

A児：学級内だけではなく、他のクラスや1年生に発表する場を設けることにより、「自分たちが学んだことの中で1番伝えたいことは何か」と目的意識をもった。また1年生に評価されることにより自分の成長を実感することができた。

B児：2年生として「もっと教えてあげよう！」と考え発表することができた。また、1年生が真剣に見てくれることで心の中が温かくなり、自分の成長を実感することができた。

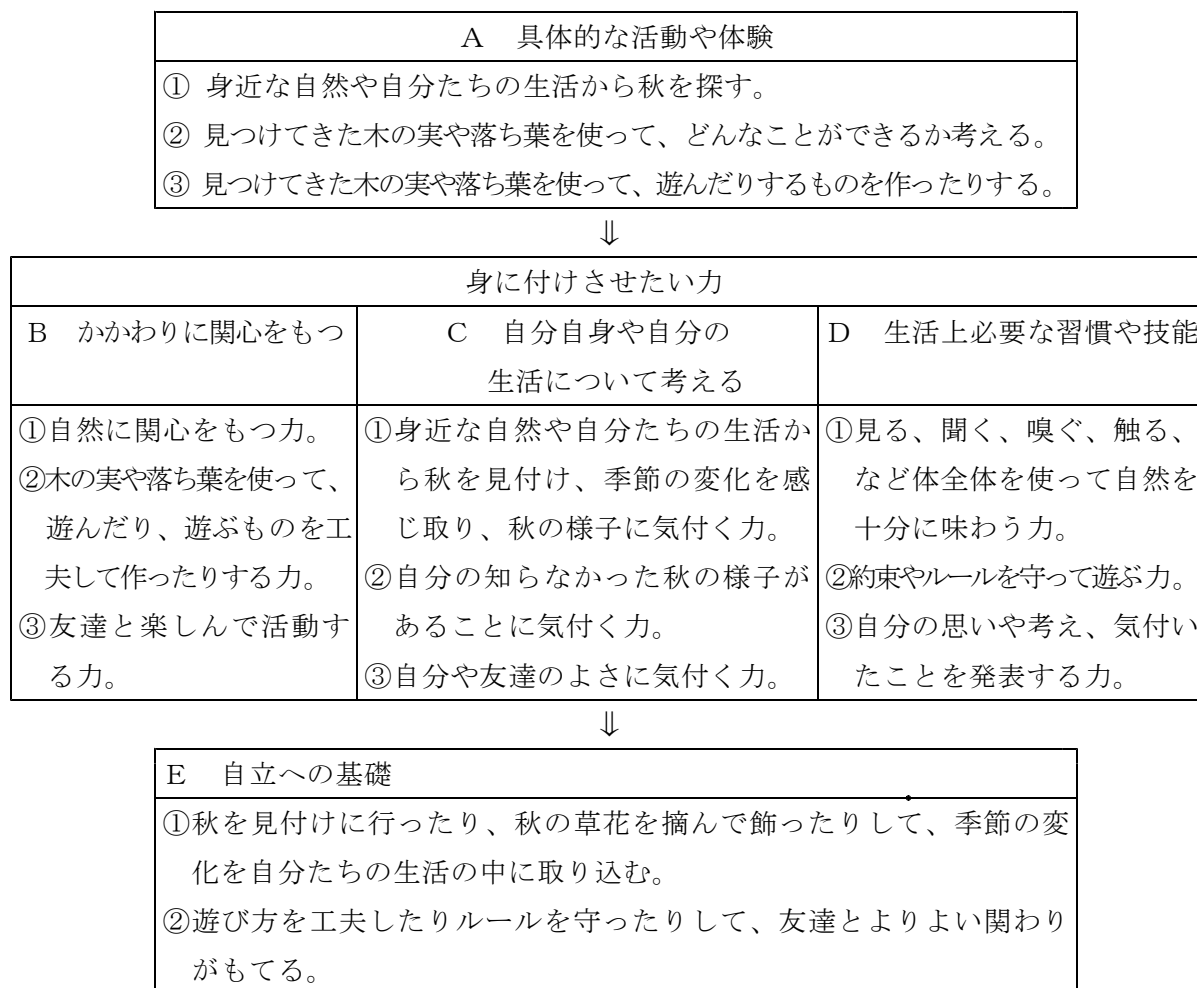
全活動を通しての考察

- ・導入・展開それぞれの部分で直接地域の人とかかわる活動を多く取り入れることにより、児童の興味・関心を湧かせることができた。その際、質問の仕方などの習慣・技能を高める役割演技を入れる事により、自信をもって地域の人とかかわる事ができ自立への基礎を養うことに繋がる。そのようなことにより放課後にも自主的にお店の人と自分の生活とのかかわりを深めようとする事ができた。
- ・学習をまとめる発表会では、学級内だけではなく他のクラスや1年生に発表する場を設けることにより、「自分たちが学んだことの中で1番伝えたいことは何か」と目的意識をもって伝えようという意欲が高まったり1年生に教えてあげたりして、自分の成長を実感することができた。

事例3 イメージマップを活用し、自分自身の思考の広がりを視覚的に捉え自分の成長を実感できるようにした実践例

第1学年 単元名「あきとあそぼう」(内容5、内容6)

- (1) 単元の目標 公園や野原で木の実や落ち葉を使って遊ぶ活動を通して、秋を楽しむことができる。
 (2) 単元構成 本単元では、身に付けさせたい内容を以下のように考えた。



(3) 児童の学びを促す適切な支援の方法の工夫・開発

本単元では、児童の学びを促す適切な支援の方法の工夫・開発として、イメージマップを使用した。低学年の児童は、単元を通して、時間とともに自分の思考がどのように流れ、広がっていったのかとらえることが難しい。イメージマップは、時間を追って記入していくため、自分自身の気づきや、今まで気付かなかったことに気付いていく過程を、つまり、自分自身の思考の広がりを視覚的にもとらえることができる。また、色別にして友達の考えも書き入れることによって、教えてくれた友達のよさに気付いたり、関わりへの意識を高めることもできる。さらに、教師にとっても、児童の思考の流れや広がりを見取る有効な手段であると考え。以上のことから、本単元では、イメージマップを活用した学習指導計画の工夫を取り入れた。そして、このように単元を構成し、学習活動の工夫をすることによって自立への基礎が養われると考える。

(4) 観察対象児のプロフィール

A児……自然への関心があまりもてず、目の前にある自然にもこちらから声かけなどの支援が必要な児童。

B児……自然への興味がとても強く発言も多いが、友達との関わりが少なく、一人で行動しがちな児童。

(5) 指導計画（全12時間）と活動の実際

時間	学 習 活 動(時数)	つけさせたい力(☆)と 具体的な手だて(○)	予想される児童の姿 (児童に対する手だて)
出 会 う ・ か か わ り 合 う	①自分の身の回りで、秋らしく なったものを出し合う。学校の 自然園に行って確かめる。 (1)		
	②③④⑤近くの公園に出かけ、 秋探しをする。見付けてきた ものを教室や廊下に飾る。(4) (実態把握の学習活動)	☆…(D①) ○だいたいの飾り方や場所 などをあらかじめ設定し、 集めたものや、子どもた ちのアイディアを生かし て飾り付けを創造させる。	・見付けてきたものが何なの か分からないでいる児童。 (教師が教えたり、一緒に図 鑑で調べたりする。)
	⑥見付けた秋を発表する。(1) イメージマップに記入する。 見つけたものが一つし かない児童は、友達の 意見を赤でイメージマ ップに一生懸命書き込 んでいた。	A児…自然園へ行っても、虫に興味を示し、秋 の様子に気付くことが難しい。 ↓ <教師>積極的に声をかけたり、秋のものを 見せたり、触れさせたりして秋の様子を知らせる。 ↓ だんだんと、「こんなものもあったよ」と見 つけたもの嬉しそうに報告してくるよう になる。	
	⑦自分たちが見付けられなかつ た秋らしいものも先生に紹介 してもらい、それらを使った 遊びや思いを出し合う。イメ ージマップに記入する。(1) (思考の耕しの学習活動) (準備期間の学習活動)	B児…たくさん見つけた秋があるのに、手を挙げ て発表できずにいる。 ↓ <教師>「それは何」「みんなにも見せてあげて」 と聞き、発言の場をつくる。 ↓ 発表できたことから嬉しそうな表情になる。ど んどんイメージマップに書き込んでいく。友達 が自分の意見を書き込んでいることにも喜んで いる。最後に書いたものを眺め、満足げな様子 A児…遊びを思いつくことができずにいる。 ↓ <教師>側に行って一緒に考えたり、友達のアイディア を参考にしてもよいことを伝える。 ↓ 自分の意見は少ししか書いていなかったが、イメ ージマップを見直し、「友達が 教えてくれたから、書けたよ。」 と発言。	

広 げ る ・ 深 め る	⑧⑨別の公園に出かけ、秋探しをする。自分が以前は見つけれなかった新しい秋を見つける。イメージマップに記入する。 (2) (新しい発見の学習活動)	A児…イメージマップを見直し、この公園では他にどんな秋のものがあるか積極的に探している。 ↓ 本単元の活動を通して、<u>自然への興味が深まってきた</u>。(児童の変容) B児…自分のイメージマップを見直し、「こんなに見つけたんだ」「たくさん書いて嬉しいな」と発言。	
る ・ 深 め る	⑩⑪見つけてきた自然の材料を使って遊ぶものを作り、みんなで遊ぶ。(2) (遊び大会)	☆…(B②)(B③)(C③)(D②) B児…自分が見つけた材料を友達にも分けてあげ、一緒に「ドングリコリント」を作る。できあがった後、他の友達も呼び、楽しそうに遊ぶ。 ↓ 秋遊びの活動を通して、「<u>一人で活動するよりも友達と一緒にのほうが楽しい</u>」ということを実感できた。(児童の変容)	・遊ぶものを楽しく作る児童。(友達に教えてあげたり、友達にも教えてもらったりするようすすめ、かわりをもたせる。) ・作り方が分からないでいる児童。(児童の思いを十分に聞き、教師がお手本を見せたり、一緒に作ったりする。)
振 り 返 る	⑫「あきとあそぼう」の学習をふりかえり、自分の成長した部分に気付く。(1) ・ふりかえりカードの記入。 ・互いに発表し、自分や友達の成長に気付く。	◎A児…「ふゆのものもみてみたくなりましたか？」の質問に「できた」と答え、「<u>たのしかったことはあきのものをさがすことです</u>」とコメントを書いていた。(児童の変容) ◎B児…「<u>ともだちとたのしくかつどうすることができましたか？</u>」の質問に「できた」と答えた。(児童の変容) ◎他の児童のコメント ・なんできせつによって木のはっぱのいろや、木のいろがかわるのかきになります。 ・あきあそびは、こまとかできて、まつぼっくりでもあそんでたのしかったです。	

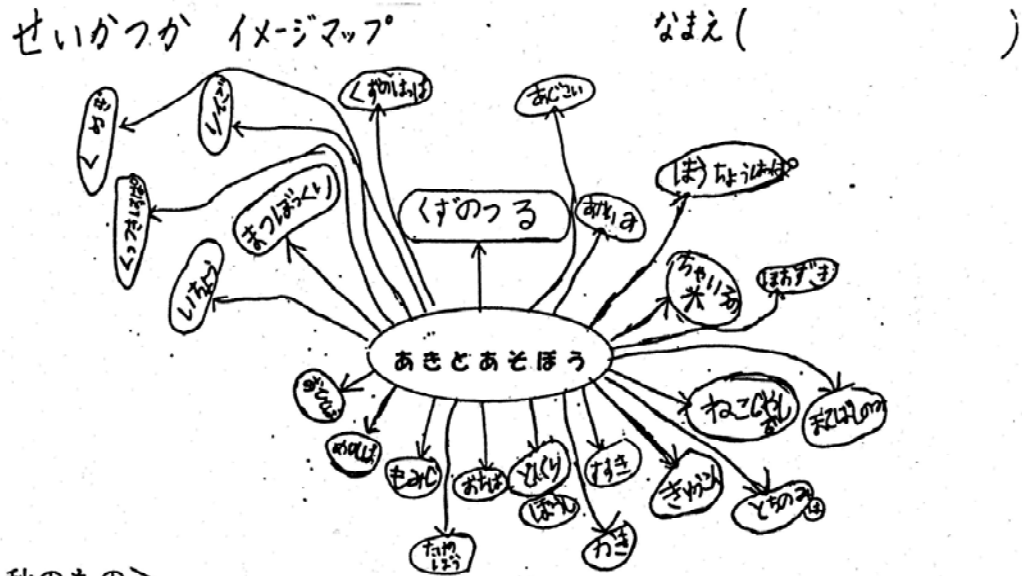
(5) 考察

自分自身の思考の広がりや視覚的にとらえるイメージマップを活用した成果は次のとおりである。

- ・子ども自らがイメージマップを見直し、「自分は、こんなにたくさん見つけられたんだ。」と、後から振り返り、自分自身の成長を実感することができた。
- ・「一人では見つけられなかったけど、お友だちが教えてくれたから分かった。イメージマップに書けた。」と、友達の良さに気付き、関わりを深めることができた。
- ・教師が、児童の思考の流れや広がりなどの実態を把握でき、毎時間の言葉かけや支援に生かすことができた。

(6) 児童のイメージマップ

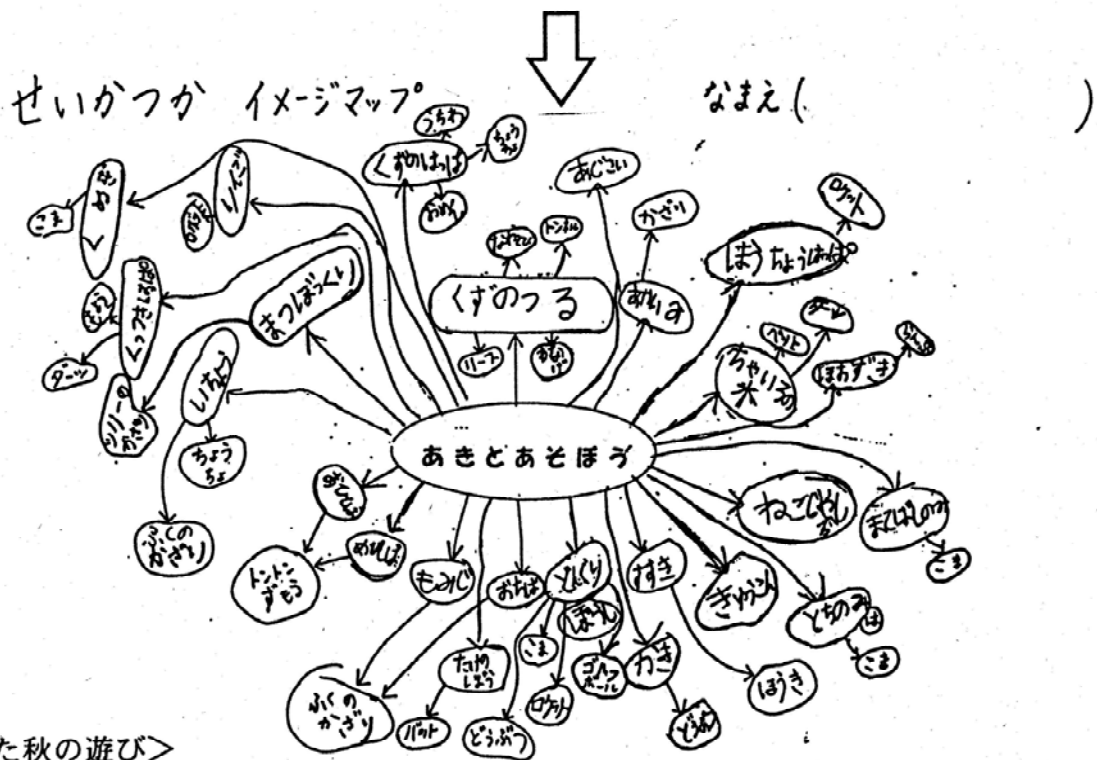
本単元では、イメージマップに、自分の考えは黒、友達の考えは赤で書き込んだ。



＜見つけた秋のもの＞

自分の考え（黒） …くつつきはつぱ、いちょう、くずのはつぱ、りんご、あじさい、あかもみ、ほうちょうはつぱ、
ちやいろの木、ねこじやし、まてばしいのみ、すすき、どんぐり、どんぐりのぼうし、おちば、
たけのぼう、もみじ、めひしば

友達の考え (赤) …くずのつる、ほおずき、とちのみ、とちのは、きゅうこん、かき、おひしば、くぬぎ、まつぼっくり



＜考えた秋の遊び＞

自分の考え（黒）…ダーツ、こま、おめん、リース、かざり、どうぶつ、ちょうちょ、ツリーのかざり

友達の考え(赤) …うちわ、なわとび、わなげ、トンネル、ロケット、バット、らんぷ、ほうき、ゴルフボール、ロボット、ふくのかざり、トントンずもう、もよう

事例4 振り返りカードの活用で、自分の成長を実感できるようにした実践例

第2学年 単元名「長池ホッとスポット」(内容3)

(1) 単元の目標

- ・様々な方法で繰り返し探検し、人や場所とのかかわりを広げ、地域の楽しさやよさに気付き愛着をもつ。

(2) 単元構成

A: 具体的な活動や体験

- ① 人とかかわり(地域の大人・1年生)
- ② 班活動から個人活動への発展
- ③ 振り返りカードの活用

身に付けさせたい内容

B: かかわりに関心をもつ	C: 自分自身や自分の生活について考える	D: 生活上必要な習慣や技能
① 様々な人・場所とかかわろうとする力 ② 様々な人と話したり聞いたりすることを乐しもうとする力	① 自分の住む地域の楽しさや良さに気付く力。 ② 様々な人の意見に気付く力 ③ 様々な人や自分のよさに気付く力	① 自分の思いや考えをまとめる力 ② 活動を計画し安全に実行する力 ③ 礼儀正しく人と接する力 ④ 自分の思いや考えを様々な人に伝える力

E: 自立への基礎

- ① 学習上の自立…活動で感じたことを生かし、自分の考えをまとめることができる。
- ② 生活上の自立…地域の様々な人達と、目的をもってかかわろうとする。
- ③ 精神上的の自立…地域に対して、親しみの気持ちや愛着をもつことができる。

(3) 児童の学びを促す適切な支援の工夫・開発(振り返りカードの活用)

① 振り返りカードの繰り返し活用

児童は、活動に価値があると意識して学習に取り組む。

② 感想から「教師の効果的問いかけ」へ

「関心」→「探検ではどんな新しい発見をしましたか」等
 「気付き」→「家族のホッとスポットを聞いてどんなことを考えましたか」等

「習慣や技能」→「1年生に自分の思いを伝えるのはどうでしたか」等

③ 考えの根拠「どうしてか」というと」を明記

教師は、行動から見取りきれない児童の心情を把握し、次の活動に反映することができる。

④ 教師の励ましや軌道修正のコメント

ふりかえりカード

10月 2年 組

今日の学し・うきあきかえってあよう





せんせうしりょうどうしてかと言った
 1年生とあそび話したことがなりました
 せんせうはあまり話せないと
 けど1年生と話せばよかった
 あそびせん(うきあき)せん
 せんせうはせんせうはあまり
 しゃべって1年生とあそび話
 しました。楽しかったです。明日はあそび

先生から
 きんぎょうがぶきとぶきい、お中になつて
 話していたのですね。リヤーがつたしょうこ
 のきょうしです。

毎時の評価を個に応じ返すことで、児童自身が次の活動手だてとして反映することができる。

⑤ 児童の心情変容の足跡

自己成長の評価をする材料になり、保護者が見ても、児童の学びを共有することができる。

以上のように、児童の学びを促す適切な支援の工夫・開発があることによって、自立への基礎が養われると考える。

(4) 対象児のプロフィール（1学期の地域探検活動を通して）

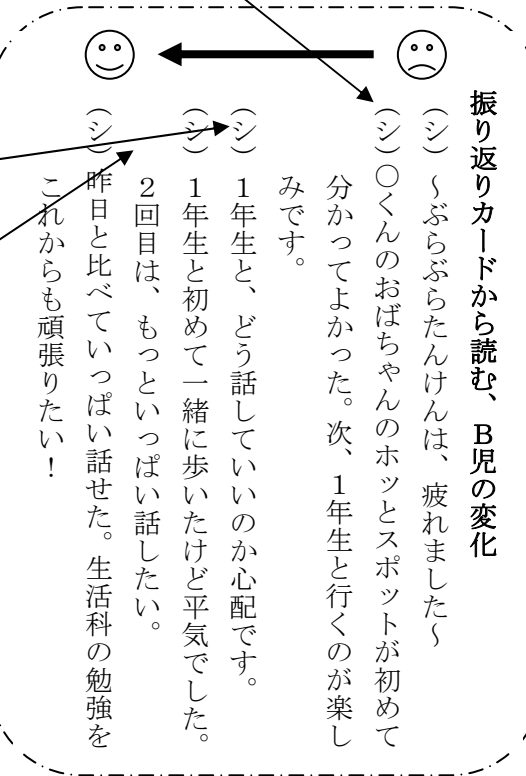
A児…班で協力出来なかったために「意欲的ではなかった」と答えた児童

B児…既に知っていることばかりだったため「学びが少なかった」と答えた児童

(5) 指導計画

●活動計画概要（20時間）

時間	学習活動(時数)	身に付けさせたい《力》・効果的問いかけ★
もう一度歩いてみよう・かかわり合う	①1学期発表し合った「みんなの発見」を確認し、次回のぶらぶら探検の準備をする。(1) ②～⑦ぶらぶら探検する。長池公園・北・南方面(6) ～自分らしさを発揮する時間1～ ・「いいな」等、児童が興味を示した物は写真を撮り、教室に掲示していく。 ⑧ここお気に入りという自分だけの「ホットスポット」を考える。(1) ～体験から自分の考えを深める時間～ ⑨家族の「ホットスポット」を調べ、大人はどう思っているのか調べる。そして、クラス・自分の「ホットスポット」と比べる。(1) ～自分と他の比較の時間～ ⑩グループで「ホットスポット」の大人へ紹介する計画を立てる。(1) * <u>計画マップ</u> ～イメージし計画を立てる時間～	身につけさせたい《力》・効果的問いかけ★ ← (力) 長池の森には緑がいっぱい (発)「元旦に夕日展望台から朝日を見るときれいだよ」「カラスの大群・トンボの広場」命名 (力) 季節毎に楽しめるから、長池の森がぼくのホットスポット → 家族のホットスポットが、風の気持ちよさを感じ読書を楽しめる長池西公園だと知って(力) 景色もよいし、ぼくも、長池西公園で本を読んでみたい。風が気持ちよさそう。 振り回りカードや発言から読む、A児の変化 ＜使＞ホットスポットしらべカード ★「家族のホットスポットを聞いてどんなことを考えましたか」

広げ る・深め るよう	①②地域の大人と「ホッとスポット紹介旅」に行き、「ホッとスポット」を紹介したり、紹介してもらったりする（２） ～班で協力し、計画を実行する時間～ *一緒に活動した方からの評価 ③１年生を招待し地域を紹介する長池ツアーを計画する（１） *計画マップ２回目 ～自分らしさを発揮する時間２～ ④～⑦１年生を招待し地域を紹介する長池ツアーを実行する（２×２回） ～自分らしさを発揮する時間３～ *１年生からの評価（お手紙）	《力》Ｂ１・Ｂ２・Ｃ２・Ｄ２・Ｄ３ ★「大人の人と紹介旅をして、よかったと思えたのは、どんな場面でしたか？」 （関心）◎③地域の大人に「ホッとスポット」を紹介したりしてもらったり楽しみながら町を歩く。 
振 り 返 る	①②③振り返り（３） ・前１７時間分の足跡を振り返り、「自分が出来るようになったところ」や「がんばりや成長した部分」に気付きまとめカードに記入する。 ・まとめカードと振り返りカード保護者に返し、コメントを書いてもらう。 ・保護者・教師からのコメントを見てから、最終振り返りを行う。 ・「出来るようになったことNo.1」を各自が発表し、友達の成長を認め合う。	

（６）考察

振り返りカードの繰り返し活用は、「教師の効果的問いかけ」を介して、児童の「ただ活動すればいい」から「振り返れば成長した自分の姿が明らかになるから、新しい挑戦をする価値がある」と意識して学習に取り組むようになった。また、教師は、児童の心情を理解し、必要な具体的支援を想定して、効果的に次の学習を進めることができた。児童の心情の変容については、自己成長の過程として保護者とともに、児童の学びを共有することができた。

このように、実感を伴った活動で感じたことを生かし、自分の考えをまとめることを繰り返すことによって、地域の様々な人達と、目的をもってかかわろうとしたことは、次第に地域に対して、親しみの気持ちや愛着をもつことができるようになり、自立への基礎の一部となったと考えられる。ただ、自分の心情を文章化する力等に個人差もあり、他教科との関連も今後の課題として残る。

IV 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

本研究では、生活科における基礎・基本をすべての子どもに指導する内容としてとらえ、児童一人一人の自立を目指すことができる指導の充実を図りたいと考え、研究を進めてきた。そのため、生活科においてすべての児童に身に付けさせたい力を明確にし、自分のよさや可能性を実感し、生活することへの意欲や自信をもつ児童を目指してきた。

具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を培う過程を具体的に把握し、フィードバックを繰り返す学習活動の積み重ね、児童自らが自分の成長を実感し、理解するための指導計画作成や学習の工夫を行ってきた。また、児童へ、学びの中で自立をうながす言葉かけや教師だけでなく児童とかかわるすべての人々が児童の学びに参画し、児童の成長を肯定的に受け止められるようになることで、伸びているという実感を児童はもちろん、学習にかかわる人々と「共有できる場」を実現してきた。成果について2つ視点から述べる。

(1) 成長を実感できる単元構成の工夫

(ア) 本単元の基礎・基本を明確にし、指導計画を組み立て、ねらいに沿った学習を進められるような学習カードを用意した。また、自分の学習カードや振り返りの活動の際に、他者からの多様な評価を基にして、自分の学習の足跡をたどれるようにしたことにより、自己の成長を実感することができた。

(イ) 身近な地域の人々と直接かかわる体験を多く取り入れることにより、児童自らがあいさつの重要性を感じ、放課後にも自主的に地域の商店の方にあいさつするなど自分の生活とのかかわりを深める姿が見られた。また、表現活動では、学校内だけでなく、様々な人へ発表する場を設けることにより、目的意識をもって伝えようとする意識が高まり、肯定的な評価によって、自分の成長を実感することができた。

(2) 児童の学びを促す適切な支援の工夫・開発

(ア) 自分と友達の良さに気付くイメージマップの活用により、自分の思考の広がり深まりを実感しやすく、また、友達の考えをカードに赤で書き加えていくことで、関わり意識が高まり今まで気付かなかったことに気付いていく過程を見取ることができた。

(イ) 振り返りカードを繰り返し活用することにより、自らの学びを意識して学習に取り組むようになった。また、行動観察だけでは受けきれない児童の心情を把握し、次の活動に反映することができた。さらに自分の言葉による感動や心情の動きの足跡は、児童自身が自己成長の評価をする材料になった。保護者が見ても、心情の変容がわかり、児童への評価につなげられた。

2 今後の課題

本研究において、成長を実感できる単元構成の工夫及び児童の学びを促す適切な支援の工夫・開発を通して、生活科で身に付けさせたい力が、一人一人の子どもに定着し、その成果を見出した。今後は、学習にかかわる人々と「共有できる場」をさらに広げるために、地域をコーディネートする力を身に付けていくことが必要である。

平成 1 7 年度 教育研究員名簿（ 生活科 ）

区市町村名	学 校 名	氏 名
港 区	南 山 小 学 校	安 川 由 美
世田谷区	砧 南 小 学 校	永 井 絵 理
練 馬 区	開進第三小学校	新 紺 明 典
足 立 区	北 鹿 浜 小 学 校	堀 英 理 子
江戸川区	南 篠 崎 小 学 校	飛 澤 直 美
八王子市	上 柚 木 小 学 校	渡 辺 晴 美
八王子市	長 池 小 学 校	門 馬 加 織
国 立 市	国立第四小学校	安 藤 智 英 美
国 立 市	国立第五小学校	◎ 秦 順 子
西東京市	田 無 小 学 校	○ 北久保恵子

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 小宮 恭子

平成 1 7 年度教育研究員研究報告書

{

東京都教育委員会印刷物登録

平成 1 7 年度 第 1 2 号

平成 1 8 年 1 月 1 6 日

編集・発行

所在地

電話番号

東京都教職員研修センター

東京都目黒区目黒一丁目 1 番 1 4 号

0 3 - 5 4 3 4 - 1 9 7 4

印 刷

株式会社 今 関 印 刷